

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 のしろ日本語学習会

1 事業の趣旨・目的

次世代を担う人材を育てる日本語教室を目指す為には、日本語指導者の力量を高めると同時に、さまざまな窓口とのネットワークを構築しなければならない。今回の講座は、子育て支援担当者や行政相談窓口担当者等にも呼びかけ、外国籍住民も一人の生活者であることを認識してもらうことを目的とした。

2 運営委員会の開催について …2回開催

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
5月31日	能代市中央 公民館	野山広 佐々木久美子 北川裕子 松山幸悦 袴田功	講座内容と連携窓口の検討	講座内容の把握 日本人地域住民への理解促進活動 日本語支援者以外の窓口への啓蒙活動計画
H24年 2月29日	能代市役所 第4庁舎会議 室	野山広 佐々木久美子 北川裕子 松山幸悦 袴田功	実施報告と反省点	講座実施評価 他団体との連携について 多文化共生の地域づくり 今後の課題

3 講座の内容について

- (1) 講座名 日本語指導ボランティア養成講座…(内6回講座を文化庁委託事業とする)
- (2) 目 標 日本語指導者の力量アップと、日本語関係者以外との連携
- (3) 受講者の総数 200人…6回講座
国籍別内訳 日本人)
- (4) 開催時間数(回数) 54時間(24回)…18時間(6回)…(文化庁委託講座)
講義 36時間(12回) 実習 18時間(12回)
- (5) 参加対象者の要件…文化庁事業の講座(6回)に関しては、日本語指導者以外の関係者
全ての参加を募った。
- (6) 受講者の募集方法
講座ごとにチラシを作製し、インターネットや地元新聞で広告掲載
全講座6回分のチラシを添付
- (7) 会場

ア 講義・・・能代市中央公民館(うち1回は図書館研修室)

イ 実習・・・日本語教室内で受講生たちと一緒に交流イベントを共有する

(8) 使用した教材・リソース

通常講座・・・「みんなの日本語」の分析・日本語教育シリーズから教授法

文化庁委託事講座(6回)・・・各講座講師陣作成資料・DVD・ビデオ

(9) 講座内容

平成 23 年度 日本語指導ボランティア養成講座スケジュール

(23 年度文化庁採択事業共催)

開催日時 毎月 2 回開催(24 回)

日曜日 午前 10 時～12 時 講義

火曜日 午後 7 時～9 時 実地講習

月	日	曜日	学 習 内 容	月	日	曜 日	学 習 内 容
4	17	日	開講式 講座内容説明、教材紹介 日本語指導者の役割	10	9	日	受講生のスピーチを聴く・感想(第二のふる里秋田)
4	29	金	日本語学習合花見交流会 (能代公園11時～3時まで)	10	25	火	実施講習日 教材を使用して教え方のポイント
5	8	日	何をどう教えるか (カリキュラム作成)	11	13	日	文化庁採択養成講座講師嶋田和子 (イーストウエスト日本語学校副校長) AM10時～13時
5	24	火	実施講習日 教材を使用して教え方のポイント	11	29	火	実施講習日 教材を使用して教え方のポイント
6	19	日	文化庁採択養成講座講師 野山広(国立国語研究所准教授) AM1時～13時	12	17	日	文化庁採択養成講座講師 小河原義郎(北海道大学留学生センター准教授) AM10～13時
6	28	火	実施講習日 教材を使用して教え方のポイント	12	20	火	実施講習日 ふれあい交流事業(忘年会) アリナス
7	10	日	日本語の文法(動詞の働き)	1	8	日	授受表現
7	26	火	実施講習日 教材を使用して教え方のポイント	1	24	火	実施講習日 教材を使用して教え方のポイント
8	7	日	日本語の文法(形容詞の分類)	2	19	日	文化庁採択養成講座講師 仙台 台入国管理局秋田出張所長 AM10時～13時
8	23	火	実施講習日	2	21	火	実施講習日

			触れ合い交流事業(お茶会)				教材を使用して教え方のポイント
9	3	土	文化庁採択養成講座講師 池上摩希子(早稲田大学大学院教) AM10時～13時 学習会恒例盆踊り会参加 PM6時～	3	4	日	社会言語学(言葉は社会と密着)
9	17	土	文化庁採択養成講座講師 嶋田和子(イーストウエスト日本語学 校副校長) AM10時～13時	3	27	火	実施講習日 心理学と日本語教育

(10) 講座の評価

- ① 受講生に対するアンケート抜粋・・・成果のある研修だったと感じた
 - * 地方の町で今回のような講義を受けることは、できないと思っていた。
 - * 各分野の専門家の講義を受けることで、より具体的に日本語教室の存在理由が理解できたので、もっとたくさんの人達がこのような講義を受けられる環境を作るべきだと思った。
 - * 具体的で分かりやすい講義内容で非常に良く理解でき楽しかった。
 - * 日本語支援に興味を持った。
- ② 実施主体からの研修内容結果評価

能代でこういう講義を受ける機会は、皆無といっても過言ではない。

日本語支援者に限らず、さまざまな分野(特に子育て支援関係者に外国籍の子供の言語取得環境を知ってもらうことを意図した)からの受講が多かった。

外国籍住民を地域の一員と考えるなら、日本語支援者だけの課題とせず、多くの窓口と共有すべきだと改めて感じた。

今回のように、地域全体で国際化を考える試みを積極的にしていくべきだと思った。
- ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

外国人支援の課題は、行政と教育委員会だと改めて思った。

これらの課題解決の要になるのは日本語教室であり日本語支援者であるとする。

行政を巻き込みさまざまな相談窓口との連携を図ることは、地域の国際化を考える上で必須である。これからも連携を図る活動を継続していきたい。

今回のような講座を開催できる補助金体制が欲しい。

(11) 事業の成果

- ① 他事業との連携・・・子育て支援機関との交流・・・男女共同参画課との連携
幼稚園・保育所との連携・DV・家庭相談窓口との連携

今回の事業で、さまざまな相談窓口から問い合わせや相談が入りました。

地域の住民として相談があっても、文化が違うことから理解できないことや

又、相談員になる日本人の側にも異文化を理解できないまま答えているという実態が

改めて浮き彫りにされたような気がします。もっともっと日本語教室の存在が、地域の中に密着することが、異文化理解の糸口になるのではと感じました。

能代市の子育て支援センターや児童家庭福祉との連携

①幼稚園や保育所から日本語教室へ出前訪問交流をしてもらったり

日本語教室の母親達が、幼稚園や保育所を訪問を実施。

②能代市発行の子育て応援冊子に「のしろ日本語学習会」が掲載

子育てをしている母親にも日本語教室の存在を知らせる事ができる。

③子育て支援課・児童家庭福祉課とのネットワークができ、

「外国籍の母親とその子供達」と題して講話依頼あり。

④学校内で外国籍の親を持つ子供達に問題等が起き場合、

日本語学習会へ相談をするようにと、市の小中学校の校長会で

連絡があったと、学校長から相談電話が入るようになった。

⑤研修後の人材活用・・・日本語支援者の意識レベル向上ができた。

教育委員会から後援を受ける事業にできたこともあり、学校から日本語指導の依頼が来るようになった。

(12) 今後の課題

日本語教室の存在が地域住民に認められている町で、外国籍住民に対して具体的な支援体制を作る第一歩としての講座だったが、成果は大いにあった。

今回のような講座を開催し、もっと他分野へ啓蒙啓発ができれば日本独自の移民施策が考えられる気がした。